

学部・研究科名 地域環境科学部
 学部長・研究科委員長名 竹内 康
 学科名・専攻名 森林総合科学科

1. 教育課程・学習成果に関する点検・評価項目

	①	②	③	④	⑤
点検項目	教育課程の編成・実施方針（カリキュラム・ポリシー）に基づき、各学位課程にふさわしい授業科目を開設し、教育課程を体系的に編成しているか。	学生の学習を活性化し、効果的に教育を行うための様々な措置を講じているか。	成績評価、単位認定及び学位授与を適切に行っているか。	学位授与方針（ディプロマ・ポリシー）に明示した学生の学習成果を適切に把握及び評価しているか。	教育課程及びその内容、方法の適切性について定期的に点検・評価を行っているか。また、その結果をもとに改善・向上に向けた取り組みを行っているか。
自己評価 (☑を記入)	<input checked="" type="checkbox"/> している <input type="checkbox"/> 一部している <input type="checkbox"/> していない	<input checked="" type="checkbox"/> 講じている <input type="checkbox"/> 一部講じている <input type="checkbox"/> 講じていない	<input checked="" type="checkbox"/> 行っている <input type="checkbox"/> 一部行っている <input type="checkbox"/> 行っていない	<input checked="" type="checkbox"/> している <input type="checkbox"/> 一部している <input type="checkbox"/> していない	<input checked="" type="checkbox"/> 行っている <input type="checkbox"/> 一部行っている <input type="checkbox"/> 行っていない
点検項目に対する現状説明	シラバスの内容の点検をしながら授業計画・内容に関する検討を実施。学科会議他を活用した検討に加え、各分野・研究室間における意見交換等も実施し、体系的な編成を構築するように全教員が取り組んでいる。	研究テーマ、進め方等、修学にあたっての協議を継続的に実施している。学生への教育・研究支援は、所属研究室において手厚く行っている。	履修科目に関する授業への出席、試験、課題等を通して成績評価、単位認定を行うとともに卒業論文審査を通して学位授与を行っている。さらに分野を超えた専門的知識を有する外部有識者との連携も図られつつある。	学生の修学状況を把握しながら学習成果を評価している。学科内の所信発表会、中間発表会および卒業論文発表会などを通じ、学位授与方針を満たしているかどうかの判断に差異が生じないように専攻内で議論している。また、研究室内での発表によるプレゼンテーション能力の向上を図っている。	シラバスの内容の定期的な点検、授業計画・内容の検討を通じた教育の改善・向上を実施している。
現状説明を踏まえた長所・特色	【長所】 ・シラバス内容の点検を通して授業の計画・内容の検討・改善に取り組んでいる。	【長所】 各学生の研究の進め方・方向性等、修学の推進に貢献できている。	【長所】 各分野を中心としながら実施することによる、専門的な評価・認定の向上を実現している。	【長所】 各学生に対する個別対応による学習成果の把握・評価の向上を実現している。	【長所】 定期的な点検による教育の内容・指導方法の改善・向上に寄与している。
	【特色】 ・授業の計画・内容の向上に繋がる。	【特色】 各学生の個別の状況に応じた修学の確保に繋がる。	【特色】 学生に対する専門知識の高度化・深化に繋がる。	【特色】 学生のテーマに合致した学習成果を適切に向上するプログラムを計画している。	【特色】 定期的な点検・評価によるPDCAサイクルを通じた教育の内容・指導方法の改善・向上が期待される。
現状説明を踏まえた問題点及び次年度への課題	【問題点】 ・研究課題が細分化、専門化してきているため、学生の研究によりそった授業の必要性が年々高まっている。	【問題点】 年々、大学運営に関する業務負担等も増加し、学内外での十分な調査研究困難な場合もある。	【問題点】 特になし	【問題点】 特になし	【問題点】 特になし
	【課題】 ・さらに効果的な指導方法の確立が望まれる。	【課題】 ・複数の教員によるチームサポートの実現を構築するとともに、今般の状況に応じた教育体制の検討が急務。	【課題】 上記の取り組みの継続的な実施。	【課題】 上記の取り組みの継続的な実施。	【課題】 さらなる充実を期すための創意・工夫。
根拠資料名	◆カリキュラム、◆学生便覧、◆シラバス、◆3ポリシー	◆レポートおよびアンケート	◆卒業論文審査に関する記録他	添付資料「卒業論文発表会プログラム」、◆3ポリシー	◆「シラバス記載内容の第三者によるチェックについて（回答）」

2. 学生の受け入れに関する点検・評価項目

	①	②
点検項目	学生の受け入れ方針（アドミッション・ポリシー）に基づき、学生募集及び入学者選抜の制度や体制を適切に整備し、入学者選抜を公正に実施しているか。	学生の受け入れの適切性について定期的に点検・評価を行っているか。また、その結果をもとに改善・向上に向けた取り組みを行っているか。
自己評価 (☑を記入)	<input checked="" type="checkbox"/> している <input type="checkbox"/> 一部している <input type="checkbox"/> していない	<input checked="" type="checkbox"/> 行っている <input type="checkbox"/> 一部行っている <input type="checkbox"/> 行っていない
点検項目に対する 現状説明	<p>入学者選抜制度や試験科目等の見直しおよび問題の難易度に関する検討を実施している。入学者選抜にあたっては他大学からの受験者に対する考慮もしながら、公正に実施している。</p> <p>I期入試においては、準備不足や曖昧な研究テーマな受験生がみられることもあるが、その後卒業時までの研究経験と期間で進学意欲が高まる学生も同様にみられるため、II期試験における受験希望者の扱いと入学希望者の拡大にも注力している。特に学外に本専攻の研究内容をPRし、学外からの受験生の確保にも努力を続けている。</p>	<p>入学者選抜試験時に点検・評価を実施するとともに毎年、学生の受け入れの適切性について点検・評価を実施している。学部学生や博士前期課程の学生に対する進学受入れの意欲向上に向けた専攻内での相互点検も実施している。</p>
現状説明を 踏まえた 長所・特色	<p>【長所】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・公平・公正な選抜制度の運用に努力している。 <p>社会情勢、経済状況に対応しながら制度・体制を整備し、能動的に取り組んでいることは長所として捉えている。</p>	<p>【長所】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・定期的な点検・評価による学生の受け入れに関する改善・向上に繋がる。
	<p>【特色】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・社会情勢、経済状況の変化に対応した柔軟な制度・体制づくりが期待できる。 	<p>【特色】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・定期的な実施によるPDCAサイクルを通じた改善・向上が期待できる。
現状説明を 踏まえた 問題点及び次 年度への課題	<p>【問題点】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各学生の研究に対する意識や能動的な研究姿勢の啓蒙に努めている。 	<p>【問題点】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ほぼ毎年、心理的ストレスを有する学生がみられている。心理カウンセラーによる対応を必要とする学生の把握と適切な指導および支援方法の検討。
	<p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・受験生には各分野の主たる領域、従たる領域を明確に理解してもらう広報戦略を課題として考えている。 	<p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教員間で情報を共有しつつ、協力しながら具体的に解決していくことが必要である。学科内に教育点検の委員会を設置し、検討を継続する。
根拠資料名	<p>入試説明会の開催</p> <p>◆入試募集要項、HP等、◆3ポリシー</p>	◆入試選考委員会実施記録等

3. 教員・教員組織に関する点検・評価項目

	①	②	③	④	⑤
点検項目	各学部・研究科等の教員組織の編制に関する方針を明示しているか。	教員組織の編制に関する方針に基づき、教育研究活動を展開するため、適切に教員組織を編制しているか。	教員の募集、採用、昇任等を適切に行っているか。	教員の資質の向上を図るための方策を組織的かつ多面的に実施し、教員及び教員組織の改善につなげているか。	教員組織の適切性について定期的に点検・評価を行っているか。また、その結果をもとに改善・向上に向けた取り組みを行っているか。
自己評価 (☑を記入)	<input checked="" type="checkbox"/> している <input type="checkbox"/> 一部している <input type="checkbox"/> していない	<input checked="" type="checkbox"/> している <input type="checkbox"/> 一部している <input type="checkbox"/> していない	<input checked="" type="checkbox"/> 行っている <input type="checkbox"/> 一部行っている <input type="checkbox"/> 行っていない	<input checked="" type="checkbox"/> つなげている <input type="checkbox"/> 一部つなげている <input type="checkbox"/> つなげていない	<input checked="" type="checkbox"/> 行っている <input type="checkbox"/> 一部行っている <input type="checkbox"/> 行っていない
点検項目に対する 現状説明	教員組織の編成方針を作成し、公表している。 基本的に毎週実施している学科会議において、随時実施している。	教員数が減少するなか、主幹となる科目を中心に専任教員を配置し、不足を非常勤講師で補うなど、適切な編成に努力している。 研究室単位でバランスの取れた教員の年齢構成に心がけている。 教員の授業負担に配慮しながら時間割編成するよう努めている。	教員の昇任は学科教授会を中心に検討し、指導教授により構成される委員会にて適切に決定している。	研究室単位で発表会を行うなど、若手教員のFD向上がみられる。 専攻独自にFD研修会などは開催していないが、積極的に学内のFD講習会に参加し、参加の推進もおこなっている。 授業評価アンケート実施とその結果を適正に認識して学生指導している。	教員の研究業績、社会活動について専攻内で共有し、点検・評価することを毎年奨励している。 若手教員指導体制が確立するよう意識した活動を計画している。
現状説明を 踏まえた 長所・特色	【長所】 ・教員組織の編成方針作成による編制を明確化している。	【長所】 ・専修分野に対応した教員組織の明確化に繋げている。	【長所】 ・会議を通じた情報の共有・議論の展開に寄与している。	【長所】 ・会議を通じた議論・検討の機会を確保できている。	【長所】 ・定期的な点検・評価による教員組織の改善・向上に寄与している。
	【特色】 ・フィールド調査および屋内実験等での研究指導を実施するなど、学生の学習と研究への貢献を実現している。	【特色】 ・学生の研究に繋がる指導が可能な教員配置を意識している。	【特色】 ・特になし	【特色】 ・特になし	【特色】 ・特になし
現状説明を 踏まえた 問題点及び次 年度への課題	【問題点】 ・特になし	【問題点】 ・教員数の定数が、現在の学生対応として、教育の量的・質的な低下をもたらしつつある。	【問題点】 ・特になし	【問題点】 ・各雑務の増大が、研究、教育時間の減少のみならず、教員間のコミュニケーション時間の低下もまねく傾向がある。	【問題点】 ・特になし
	【課題】 ・上記の取り組みの継続的な実施。	【課題】 ・研究室全体での研究・教育・指導を念頭にした教員配置計画を策定する。	【課題】 ・雑務の増大により論文の執筆活動が停滞している教員も散見されるため、論文執筆を促すための具体的な工夫が必要。	【課題】 ・効率的な事務作業等を検討し、十分なコミュニケーションを図る。	【課題】 ・若手教員の研究力向上のための検討を継続する。
根拠資料名	教員配置表 教員名簿、学生便覧、HP等	教員配置表 教員名簿、学生便覧、HP等	教員配置表、学生便覧、HP等	学科会議資料	学科会議資料

学部・研究科名 地域環境科学部
 学部長・研究科委員長名 竹内 康
 学科名・専攻名 生産環境工学科

1. 教育課程・学習成果に関する点検・評価項目

	①	②	③	④	⑤
点検項目	教育課程の編成・実施方針（カリキュラム・ポリシー）に基づき、各学位課程にふさわしい授業科目を開設し、教育課程を体系的に編成しているか。	学生の学習を活性化し、効果的に教育を行うための様々な措置を講じているか。	成績評価、単位認定及び学位授与を適切に行っているか。	学位授与方針（ディプロマ・ポリシー）に明示した学生の学習成果を適切に把握及び評価しているか。	教育課程及びその内容、方法の適切性について定期的に点検・評価を行っているか。また、その結果をもとに改善・向上に向けた取り組みを行っているか。
自己評価 (☑を記入)	<input checked="" type="checkbox"/> している <input type="checkbox"/> 一部している <input type="checkbox"/> していない	<input checked="" type="checkbox"/> 講じている <input type="checkbox"/> 一部講じている <input type="checkbox"/> 講じていない	<input checked="" type="checkbox"/> 行っている <input type="checkbox"/> 一部行っている <input type="checkbox"/> 行っていない	<input type="checkbox"/> している <input checked="" type="checkbox"/> 一部している <input type="checkbox"/> していない	<input checked="" type="checkbox"/> 行っている <input type="checkbox"/> 一部行っている <input type="checkbox"/> 行っていない
点検項目に対する 現状説明	カリキュラム・ポリシーに基づき、学位課程にふさわしい授業科目を開設し、教育課程を体系的に編成している。1・2年次には学科共通的な科目を、学年の進行に伴い、専門教育科目を配置している。年次には学科の学びに関連した実習や現場見学を行う実習を開講している。	個人面談を定期的の実施している。また、教育点検委員会や各科目関連の検討委員会を設置し、効果的な教育を行うための措置を講じている。答案・レポート返却を実施し、復習させるように努めている。その他、毎学期、輪番制で教員相互の授業視察を実施している。	成績評価の方法や基準はシラバスに明記している。試験については正答の開示を行い、採点後の答案や添削したレポートの返却を実施している科目もある。卒論については研究室を超えた発表会を実施し評価している。最終的な単位認定・学位授与については会議で判定している。	定期的に行う個人面談で学習成果の把握を実施している。面談では学生本人からの履修状況の申し出とともに、面談実施記録（Excel ファイル）掲載の成績を利用している。技術者養成コースの学生には学習目標達成度評価を行ってもらっている。	教育改善委員会は毎週、教育点検委員会および技術者教育検討委員会は月1回程度開催し、定期的に教育課程及びその内容、方法の適切性を点検・評価し、恒常的に改善・向上に向けた取り組みを行っている。また、外部委員も含めた教育システム評価委員会を年1回開催している。
現状説明を 踏まえた 長所・特色	【長所】 ・分野＞研究室＞教員へと所属を細分化することで、専門教育への導入を緩やかに、かつ効果的に行うことができる。	【長所】 ・各委員会でのカリキュラム・教育内容検討や教員相互の授業視察により、講義内容や講義方法を検討・改善することができる。	【長所】 ・答案返却・配点开示等により、透明性の高い成績評価を実施している。 ・卒論については専門分野外教員からのコメント・評価が受けられる。	【長所】 ・個人面談は学生の履修状況・学修意欲を把握することに利用できる。 ・達成度評価は学生と教員双方による達成状況の把握を容易にしている。	【長所】 ・問題が生じた場合の改善策を迅速に議論し、改善への取り組みの着手を迅速に行える。
	【特色】 ・体験的科目を配置している。 ・工学的な専門科目を理解できるように理数系の基礎科目を配置している。	【特色】 ・定期的な個人面談、授業視察、答案・レポート返却など実施している。	【特色】 ・採点後の答案や添削したレポートの返却を実施している。	【特色】 ・個人面談を実施して対応している。	【特色】 ・学科のカリキュラム・ポリシーや教育コースに沿った委員会を設置している。
現状説明を 踏まえた 問題点及び次 年度への課題	【問題点】 ・特に低学年次に、理数系の基礎科目の習熟度に差が生じ、学科カリキュラムを離脱する学生が一定数存在する。	【問題点】 ・個人面談実施に応答しない学生や、答案レポート返却を受けない学生がいる。	【問題点】 ・答案の返却によって過去の試験問題が流出するため、授業全般に対して幅広く学習する姿勢が低下する可能性がある。	【問題点】 ・現在、達成度評価は技術者養成コースの学生のみ作成している。 ・履修モデルに従わない学生がいる。	【問題点】 ・点検項目には問題ないが、委員会が過多となり、教員の労働負担が過大となっている。
	【課題】 ・授業以外の時間なども使って基礎学力の向上を図る。	【課題】 ・学習意欲のまったくない学生への対応を検討していかなければならない。	【課題】 ・試験の出題方法や評価の仕方を工夫する必要がある。試験以外の成績評価方法を併用する必要もある。	【課題】 ・WebClassで実施予定の、DP達成度可視化について、多くの科目で導入する必要がある。	【課題】 ・ルーチンワークとして実施できる部分は簡素化し、改善・向上への取り組みを実効性のあるものとする。
根拠資料名	工学3ポリ (a1-①-1) 学科開設科目 (a1-①-2) カリキュラムツリー (a1-①-3)	個人面談記録 (a1-②-1) 授業視察実施担当者 (a1-②-2)	JABEE・コース紹介と履修 (a1-③-1)	工学3ポリ (a1-①-1) 学習目標達成度自己評価 (a1-④-2)	教育関連委員会関連図 (a1-⑤-1) 教育改善委員会議事録 (a1-⑤-2)

2. 学生の受け入れに関する点検・評価項目

	①	②
点検項目	学生の受け入れ方針（アドミッション・ポリシー）に基づき、学生募集及び入学者選抜の制度や体制を適切に整備し、入学者選抜を公正に実施しているか。	学生の受け入れの適切性について定期的に点検・評価を行っているか。また、その結果をもとに改善・向上に向けた取り組みを行っているか。
自己評価 (☑を記入)	<input checked="" type="checkbox"/> している <input type="checkbox"/> 一部している <input type="checkbox"/> していない	<input checked="" type="checkbox"/> 行っている <input type="checkbox"/> 一部行っている <input type="checkbox"/> 行っていない
点検項目に対する 現状説明	<p>本学の学生募集・入学者選抜には、一般選抜、大学入学共通テスト利用選抜（2科目型、3科目型、4科目型）の他、自己推薦型選抜、公募型選抜、特別選抜などがあり、自己推薦型選抜には、キャリアデザイン総合型選抜、高校で学んだ実践スキル総合型選抜、東京農大ファミリー総合型選抜が、公募型選抜には一般学校推薦型選抜が、特別選抜には指定校推薦型選抜、併設高校推薦型選抜などがある。一般選抜はA日程、B日程が、大学入学共通テスト利用選抜においても前期募集と後期募集(後期は3科目型のみ)が整備されている。特に、指定校推薦型選抜の指定校は学科が選定することになっており、全国にわたって多様な高校を指定している。これら選抜制度により多様な高校生の確保を可能としている。また、合否判定には、一般選抜及び大学入学共通テストでは筆記試験の点数により、その他の選抜制度においては、学科独自で出題する小論文や学科教員で対応する面接あるいは口頭試問により適性を判断し、各試験終了後に開催する合否判定会議において結果を総合して評価し合否を判定している。このようにして公正な入学者選抜を実現している。</p>	<p>学生の受け入れの適切性については、各入試制度の終了後の学科での合否判定の際に点検を行っている。必要に応じて改善・向上に向けた取り組みを行っている。また毎年、大学主導のもと入試制度について点検と見直しを実施している。アドミッションポリシーについては、大学案内やホームページの更新の際に見直しを行っている。また、在学生の成績と併せて、個人面談を実施するなどして在学生の状況を把握し、入学制度別に整理することで、入学時の受け入れの適切性の評価につなげている。</p>
現状説明を 踏まえた 長所・特色	【長所】 ・多様な入試制度は、多くの受験機会を高校生に与えることになっている。	【長所】 ・教員による点検・評価とともに、学生との面談も活用している。
	【特色】 ・多様な入試制度を併用することは、入学後において資質や経験において多様な学生が共存することになり、在学期間中のみならず卒業後にも重要な、成長の場を提供することになる。 ・指定校推薦型選抜等で地方出身の学生を数多く入学させ、卒業後に地方で就職させる、ということは、まさに「人物を畑に還す」という本学のポリシーに則している。	【特色】 ・個人面談などにより入試制度と学習状況を把握することができる。
現状説明を 踏まえた 問題点及び次 年度への課題	【問題点】 ・多様な入試制度を併用することは、多様な学生が入学するということになるが、学力の差が大きい学生が入学してくる場合もあり、入学後の教育の負担が大きくなる。	【問題点】 ・入試は大学主導のもと実施されている。学科としては入試科目の中の選択科目の設定は任されているが、必須科目と選択科目を自由に指定できない。
	【課題】 ・入学後の教育についていける能力のある学生の質を入学者選抜で判定しなければならないが、一方で、志願者数の確保も重要であり、入学前準備教育も含め引き続き検討する必要がある。	【課題】 ・学科の独自性を活かし、より多様な学生を確保するために、学科あるいは学部独自で入試を実施するという事も考えられる。
根拠資料名	募集人員 (a2-①-1) 評価結果(一般学校推薦) (a2-①-2)	個人面談記録 (a1-②-1) 満足度調査 (a2-②-1)

3. 教員・教員組織に関する点検・評価項目

	①	②	③	④	⑤
点検項目	各学部・研究科等の教員組織の編制に関する方針を明示しているか。	教員組織の編制に関する方針に基づき、教育研究活動を展開するため、適切に教員組織を編制しているか。	教員の募集、採用、昇任等を適切に行っているか。	教員の資質の向上を図るための方策を組織的かつ多面的に実施し、教員及び教員組織の改善につなげているか。	教員組織の適切性について定期的に点検・評価を行っているか。また、その結果をもとに改善・向上に向けた取り組みを行っているか。
自己評価 (☑を記入)	<input checked="" type="checkbox"/> している <input type="checkbox"/> 一部している <input type="checkbox"/> していない	<input checked="" type="checkbox"/> している <input type="checkbox"/> 一部している <input type="checkbox"/> していない	<input checked="" type="checkbox"/> 行っている <input type="checkbox"/> 一部行っている <input type="checkbox"/> 行っていない	<input checked="" type="checkbox"/> つなげている <input type="checkbox"/> 一部つなげている <input type="checkbox"/> つなげていない	<input checked="" type="checkbox"/> 行っている <input type="checkbox"/> 一部行っている <input type="checkbox"/> 行っていない
点検項目に対する現状説明	1～2年次（新カリキュラム学生）には農業環境工学分野とスマートアグリ分野の2分野があり、各分野は2つの研究室で構成されている。3～4年次では、農業土木学系2分野と農業機械学系1分野、それに広域情報系1分野の計4分野で、さらに各分野は2つの研究室で構成されている。	協力しながら各分野・各研究室の教育・研究活動を網羅的に実行している。複数名の教員を1研究室に配置することを原則とし、現在、その新体制への移行を進めている。教員居室を含めた研究室配置などが決定され、その移行を来年度予算に計上し進める方向で、準備している。	教員の欠員が生じる場合には、直ちに適切な教員構成となるよう人事計画を策定し実行している。募集は公募で行い採用については大学規定のルールのもと行っている。昇格については毎年、研究業績・教育・管理業務等の実績調査を該当者に実施し、学科の基準を満たした者については学科教授会の推薦により昇格できるようにしている。	教育に関して、教育改善委員会、教育点検委員会、技術者教育検討委員会、非常勤講師懇談会、教育システム評価委員会等を組織している。全分野にわたる学生の卒論発表会に参加してもらい幅広い研究に触れる機会を増やしている。大学の制度である依命留学は、毎年候補者を検討している。その他、各種FD活動や講習会などへの参加も促すなどして、資質の向上・改善につなげている。	教員組織の適切性は毎週1回開催される教員会・教育改善委員会で、また定期的に開催されるその他の各委員会において点検・評価されている。2025年度は旧カリから新カリ体制への移行期であったため、新カリ体制下における教員組織の改善・向上に向けて、各教員の資質向上に関する取組みも含め、今後も継続して実施していく。
現状説明を踏まえた長所・特色	【長所】 ・時代に即した学科となるよう、分野・研究室を再編した。	【長所】 ・幅広い教育研究活動を実現できている。	【長所】 ・透明性の高い人事を実現できている。	【長所】 ・幅広い議論の場、情報交換の場を設けている。	【長所】 ・毎週1回全員参加の会議を開催していることで、迅速な対応が可能である。
	【特色】 ・他学科や他大学との差別化を図ることにもつながる。	【特色】 ・各研究室の教員数に応じて所属学生を配分することで、各教員の教育上の負担が均等になるようにしている。	【特色】 ・本学では職階毎の人事枠の規定はないので、点数化された基準を満たせば昇格できるようになっている。	【特色】 ・技術者教育機関として外部(JABEE)から認定されるほど多様な教員の質の向上策及び教員組織の改善策を実行している。	【特色】 ・学外(卒業生や技術士)からの評価を取り入れる仕組みを有している。
現状説明を踏まえた問題点及び次年度への課題	【問題点】 ・学年によって、新カリ学生・旧カリ学生が混在している。物理的研究室の新カリ体制への移行にコストがかかる。	【問題点】 ・学生の希望や要望を十分に取り入れた教育上の体制となっていない場合がある。	【問題点】 ・昇格者の増加により、従来、助教等が行っていた業務を准教授・教授となっても担当してもらう必要がある。	【問題点】 ・多数の委員会が存在しており、会議のために多くの時間をさかなければならない。	【問題点】 ・学外組織の人材要望・評価と高校生の関心が一致しないこともあり、入学志願者の増加に直結しない場合もある。
	【課題】 ・教員居室も含めた新研究室設置場所への移行を学生の混乱なく進める必要がある。	【課題】 ・ディプロマ・ポリシーと学生の要望の整合を図りつつ、教育研究組織の編成について検討していかなければならない。	【課題】 ・職階で業務を限定しないようにする。	【課題】 ・会議は少なくして実効性の高いものにしていく必要がある。	【課題】 ・社会のニーズと多くの高校生の興味との整合を図るべく広報活動が必要である。
根拠資料名	教員組織編制の方針 (a3-①-1) 学科研究室体制 (a3-①-2)	教員組織の方針と編成 (a3-①-1) 2024 学科新体制 (a3-②-1)	昇格に関する業績等調査依頼・回答書 (a3-③-1) 土木研公募文 (a3-③-2)	各種委員会名簿 (a3-④-1)	教育改善委員会議事録 (a1-⑤-2)

2025（令和7）年度 基礎的事項に関する点検・評価報告書

様式 1

学部・研究科名 地域環境科学部
 学部長・研究科委員長名 竹内 康
 学科名・専攻名 造園科学科

1. 教育課程・学習成果に関する点検・評価項目

	①	②	③	④	⑤
点検項目	教育課程の編成・実施方針（カリキュラム・ポリシー）に基づき、各学位課程にふさわしい授業科目を開設し、教育課程を体系的に編成しているか。	学生の学習を活性化し、効果的に教育を行うための様々な措置を講じているか。	成績評価、単位認定及び学位授与を適切に行っているか。	学位授与方針（ディプロマ・ポリシー）に明示した学生の学習成果を適切に把握及び評価しているか。	教育課程及びその内容、方法の適切性について定期的に点検・評価を行っているか。また、その結果をもとに改善・向上に向けた取り組みを行っているか。
自己評価 (☑を記入)	<input checked="" type="checkbox"/> している <input type="checkbox"/> 一部している <input type="checkbox"/> していない	<input checked="" type="checkbox"/> 講じている <input type="checkbox"/> 一部講じている <input type="checkbox"/> 講じていない	<input checked="" type="checkbox"/> 行っている <input type="checkbox"/> 一部行っている <input type="checkbox"/> 行っていない	<input checked="" type="checkbox"/> している <input type="checkbox"/> 一部している <input type="checkbox"/> していない	<input checked="" type="checkbox"/> 行っている <input type="checkbox"/> 一部行っている <input type="checkbox"/> 行っていない
点検項目に対する 現状説明	造園学の3つの分野(環境計画・設計分野、ランドスケープ資源・植物分野、景観建設・技術分野)に関する科目ならびに専門科目を総合化する科目を配当した教育体系を編成している。具体的には以下(1)～(5)の配当となる。(1)地域環境問題に関する見方や地域環境科学の学習の動機付け、造園を学ぶために必要な基礎科目の配当(2)造園学における計画・設計に関わる基礎からより高度な専門の理論体系と、造園空間創成のための手法論を修得する環境計画・設計分野に関する専門科目の配当(3)生物や生態に関わる基礎知識、造園植物や造園植栽、緑地生態などに係る専門理論、造園空間創成の技術論を修得するランドスケープ資源・植物分野に関する専門科目の配当(4)造園建設・施工に関わる基礎と専門理論、造園空間創成の技術論を修得する景観建設・技術分野の専門科目の配当(5)造園学を構成する3分野を統合し、造園学を応援的に理解しつつ、グループディスカッション、グループワークを軸に学修を展開することで、実践的・実務的な応用力を修得する総合化科目及び学祭領域科目の配当	造園科学科では、演習科目を軸として授業を行い、体験的かつ実践的な学習を可能としている。	学科の全教員がシラバスにおいて成績評価基準を示している。正解または模範解答を示し、それに基づいた採点を行っている。さらには採点した試験解答や評価した演習課題の返却を実施している。教員相互、あるいは第三者(日本技術者教育認定機構 JABEE)等に成績評価、単位認定及び学位授与が適切に運用されているかが確認できるようにしている。	造園科学科では造園技術者育成のために8項目の能力を提示している。各学年前学期および後学期初めの行う学年ガイダンスにおいて能力育成のための学習・教育目標の達成度(学習成果)について自己評価及び学年担任によるチェックを実施している。また、成績不振者等に対してはサポートのために個別の面談を実施している。	造園科学科の授業科目は、第三者機関である日本技術者教育認定機構(JABEE)による認定を基本としている。 2021年に実施されたJABEE審査時の指摘をもとに、コース制への変更と新評価システムの構築を実施した。また毎年非常勤講師・客員教授との意見交換会を実施しており、授業担当者間における相互理解を図っている。
現状説明を踏まえた 長所・特色	【長所】・3分野の専門科目を基幹とした構成と専門科目の分野横断的・総合化を狙った講義および実習・演習の体系的配当・将来の進路選択や実社会のニーズに即した専門科目を秩序立てて選択することが可能なカリキュラム構成・地域環境科学部学部共通科目などと連動した複合的・総合的なカリキュラム構成による先鋭化	【長所】体験型の演習と理論的な学習を並行して実施することにより、学生の理解や興味がより深まっている。	【長所】JABEEプログラムの精度担保のために、JABEE担当者による授業シラバスの定期的な点検、成績評価の客観性、単位認定及び学位授与の適正性の点検を行っている。	【長所】学生自身が学習教育目標到達度チェックを行い、状況の見える化を図ることで、自ら改善点を考えるきっかけとなっている。	【長所】第三者機関による客観的な評価及び改善点の指摘を元に、改善点について科内会議にて日常的に検討を実施している。
	【特色】・第三者機関の審査(日本技術者教育認定機構(JABEE))に耐えうる教育体制としている。	【特色】演習に携わる非常勤講師に社会的ニーズについて伺い、授業にフィードバックしている。	【特色】第三者機関の審査(日本技術者教育認定機構(JABEE))に耐えうる教育体制としている。	【特色】第三者機関の審査(日本技術者教育認定機構(JABEE))に耐えうる教育体制としている。	【特色】第三者機関の審査(日本技術者教育認定機構(JABEE))に耐えうる教育体制としている。
現状説明を踏まえた 問題点及び次年度への課題	【問題点】・自然科学、社会科学、芸術理論の関係性を整理しつつ、結びつける総合化の難しさが存在する。	【問題点】自然環境などに対する体験不足が考えられ、カリキュラム内での自然環境の観察力の向上の検討が必要である。	【問題点】JABEEプログラムのコース制移行に伴い、授業シラバスや講義・演習の点検基準の見直しを実施中である。	【問題点】JABEEプログラムのコース制移行に伴い、コース選択者以外の学生の学習意欲が継続的に保てるよう更なる工夫が必要である。	【問題点】JABEEプログラムのコース制移行に伴い、学科内の評価・改善担当者の効果的な分担の仕組みを考える必要がある。
	【課題】・社会的ニーズへの対応や追従に課題が残る。	【課題】演習に掛ける教員の労力や時間が過負担にならないように調整する必要がある。	【課題】新たな点検基準の学生及び非常勤講師などへの周知。	【課題】学習教育目標到達度チェック後の全体指導及び面談設定の仕組みの構築	【課題】教育点検担当者選出における効果的・効率的な方法を構築する必要がある。
根拠資料名	造園科学科指針 2025	造園科学科指針 2025	造園科学科指針 2025	造園科学科指針 2025	造園科学科プログラム点検書(実地審査後)(2021年10月11日)

2. 学生の受け入れに関する点検・評価項目

	①	②
点検項目	学生の受け入れ方針（アドミッション・ポリシー）に基づき、学生募集及び入学者選抜の制度や体制を適切に整備し、入学者選抜を公正に実施しているか。	学生の受け入れの適切性について定期的に点検・評価を行っているか。また、その結果をもとに改善・向上に向けた取り組みを行っているか。
自己評価 (☑を記入)	<input checked="" type="checkbox"/> している <input type="checkbox"/> 一部している <input type="checkbox"/> していない	<input checked="" type="checkbox"/> 行っている <input type="checkbox"/> 一部行っている <input type="checkbox"/> 行っていない
点検項目に対する 現状説明	造園科学科では、当学科の教育・研究・就職などの特徴を踏まえ、首都圏のみならず地方の高校や農業系高校からの受験生獲得のために継続的な議論を行っている。推薦入試による入学者選抜においては、事前課題として自然環境や都市環境に関する小論文及び関連図表作成課題などを課すことでアドミッション・ポリシーに基づく受験生確保を目指している。また面接における学科教員の組分けは、可能な限り専門分野や職階の異なる組み合わせを行い、多様な観点からの選抜を担保している。	前学期・後学期の開始時及び終了時に JABEE コース選択者に対する個人面談や全学生を対象とした希望者及び成績不審者への面談を実施している。また学生受け入れ時の属性を加味しながら、受け入れの適正性について点検を行っている。毎週実施する学科教員会においては、定期的に各学年担任から面接結果の報告や教員間で共有すべき学生状況について報告が行われ、情報を共有している。
現状説明を 踏まえた 長所・特色	【長所】 ・学科の特色(自然科学・社会科学・芸術)を生かした推薦入試の事前課題により、自然保護活動やまちづくり活動に興味をもつ受験生の確保が行えている。	【長所】 ・本学科卒業生の就職先を検証したところ、造園界に多様な分野(公務員、教員、ゼネコン、造園・建設系企業、設計事務所、コンサルタント、樹木生産者等)に就職を果たしており、造園技術者の中核として活躍している。これらのことから学生募集の方針や体制に問題はないと考える。
	【特色】 ・多様な入試制度によって入学者選抜を行うことで、多様な人材の確保を可能としている。	【特色】 ・多様な入試制度及び試験内容により学生を選抜することで、適正が伴う学生達の学習状態は極めて良好であり、企業から専門性や意欲の高さを評価されている。
現状説明を 踏まえた 問題点及び次 年度への課題	【問題点】 ・年内入試の受験者数や合格者数が増加することで、一般入試の受験者数が減少している。 ・文理融合型として文系受験を実施しているため、理系科目に苦手意識を持つ学生が一定数存在する。	【問題点】 ・特に年内入試による入学者の学力低下が生じている。資質と高い意欲を4年間持続する学生達が存在する反面、学力不足、意欲の低下による学業不振が生じている学生達も散見される。
	【課題】 ・造園科学科の魅力を良い多くの受験生や社会全体に伝え、受験者の総数を増加させることが急務である。	【課題】 ・学生達の学習レベルや意欲の差があっても、お互いに学びあい、向上しあう教育プログラムの検討する必要がある。
根拠資料名	2026年度大学案内	2025年度造園科学科指針 2026年度大学案内

3. 教員・教員組織に関する点検・評価項目

	①	②	③	④	⑤
点検項目	各学部・研究科等の教員組織の編制に関する方針を明示しているか。	教員組織の編制に関する方針に基づき、教育研究活動を展開するため、適切に教員組織を編制しているか。	教員の募集、採用、昇任等を適切に行っているか。	教員の資質の向上を図るための方策を組織的かつ多面的に実施し、教員及び教員組織の改善につなげているか。	教員組織の適切性について定期的に点検・評価を行っているか。また、その結果をもとに改善・向上に向けた取り組みを行っているか。
自己評価 (☑を記入)	<input checked="" type="checkbox"/> している <input type="checkbox"/> 一部している <input type="checkbox"/> していない	<input checked="" type="checkbox"/> している <input type="checkbox"/> 一部している <input type="checkbox"/> していない	<input checked="" type="checkbox"/> 行っている <input type="checkbox"/> 一部行っている <input type="checkbox"/> 行っていない	<input checked="" type="checkbox"/> つなげている <input type="checkbox"/> 一部つなげている <input type="checkbox"/> つなげていない	<input checked="" type="checkbox"/> 行っている <input type="checkbox"/> 一部行っている <input type="checkbox"/> 行っていない
点検項目に対する現状説明	学部運営委員会において示された教員組織の編制などに関する情報は、教員ポータルで全学科教員に共有を図っている。また学科教員会においても学部の方針について提示し、議論するよう心掛けている。	造園科学科は2021年度より5研究室体制(1研究室3名)に移行している。2025年度は嘱託教授(0.5 枠)2名を含めた教員組織編制となり、2026年度には専任教員による15名体制への移行を計画している。	造園技法・材料学研究室の教員募集を実施し、2025年度に助教1名を採用した。緑化植栽学研究室の教員募集を行い、2026年度に教授1名の採用が確定した。また昇任の可能性のある教員の業績や服務状況について複数名の教授による確認・サポートを実施した。	教員昇格に関する学科長面談を対象者に対して複数回実施した。さらに面談結果を学科で共有し、昇格に対するサポートを検討した。	学科教授の会を定期的に行い、現状について点検を行っている。教授以外の教員へのヒアリングの場を適宜設定し、意見の徴収を行っている。学科教員全員でのディスカッションの機会、また若手教員による討論の機会を設定した。
現状説明を踏まえた長所・特色	【長所】 ・教員ポータルの活用により、同時に全職階の教員へ直接方針の明示ができる。	【長所】 ・学科の教育方針(3分野5研究室)と教員組織が連動しており、学生にとって理解しやすい教育環境となっている。	【長所】 ・教員募集に際し、学外への周知等を実施した。	【長所】 ・学科教授会及び教授以外の教員とのミーティング、全体協議など関連な意見交換が可能な環境を設定している。	【長所】 ・職階ごとのミーティング設定により活発な意見出しが可能になった。
	【特色】 ・方針共有後、学科教員会にて議論することで学科の特徴を活かした具体的方策へと展開できる。	【特色】 ・教育と研究活動の推進に適した環境となっている。	【特色】 ・教員募集や昇任を通して、学科の将来ビジョンを学科全体で共有することで、課題点等について共通意識を持つことができる。	【特色】 ・多様な意見の汲み上げにより、短期・中期・長期的な教員組織の目標を全体で共有しつつ実現化を図る基盤作りを進めている。	【特色】 ・職階や年齢ごとに意見を整理することで、多様な観点からの課題や解決方策が挙げられ、取り組みを検討した。
現状説明を踏まえた問題点及び次年度への課題	【問題点】 ・少子化における受験生獲得に関して、学科内で改善を検討し、学部内でも相互に協力体制を強固にする必要がある。	【問題点】 ・現在、教員年齢と専門分野のバランスに偏りが生じており、複数年かけての是正に取り組んでいる。	【問題点】 ・学問や分野の特殊性から適任者が限られてしまう現実がある。	【問題点】 ・組織を構成する個々人の課題点を洗い出した後、それらを個人の問題としてだけでなく、組織としてサポートする新たな方策について検討・実行する必要がある。	【問題点】 ・点検・評価後の改善・向上方策に対しては、学科全体での課題解決方策へのビジョン共有が必要となる。長・中期ビジョンについて継続して検討を行う。
	【課題】 ・学科の特徴を十分に活かすことで学部の魅力も増す好循環に対する具体策を議論していく。	【課題】 ・適正バランスへの是正計画は検討しているが、造園という専門分野の特殊性もあり人材の確保が容易ではないため、早めの人材育成または人材検討が重要である。	【課題】 ・採用公募の情報をより広く効果的に拡散、展開する工夫が必要である。	【課題】 ・教員ひとりひとりの長所を活かし、かつ課題点を発見するために、組織マネジメントの重要性を全体で再認識する必要がある。	【課題】 ・組織としてのマネジメント体制が充分とはいえないため、その構築が今後の課題と言える。
根拠資料名	2025年度学科教員会資料	2025年度学科教員会資料	2025年度学科教員会資料	2025年度学科教員会資料	2025年度学科教員会資料

学部・研究科名 地域環境科学部
 学部長・研究科委員長名 竹内 康
 学科名・専攻名 地域創成科学科

1. 教育課程・学習成果に関する点検・評価項目

	①	②	③	④	⑤
点検項目	教育課程の編成・実施方針（カリキュラム・ポリシー）に基づき、各学位課程にふさわしい授業科目を開設し、教育課程を体系的に編成しているか。	学生の学習を活性化し、効果的に教育を行うための様々な措置を講じているか。	成績評価、単位認定及び学位授与を適切に行っているか。	学位授与方針（ディプロマ・ポリシー）に明示した学生の学習成果を適切に把握及び評価しているか。	教育課程及びその内容、方法の適切性について定期的に点検・評価を行っているか。また、その結果をもとに改善・向上に向けた取り組みを行っているか。
自己評価 (☑を記入)	<input checked="" type="checkbox"/> している <input type="checkbox"/> 一部している <input type="checkbox"/> していない	<input checked="" type="checkbox"/> 講じている <input type="checkbox"/> 一部講じている <input type="checkbox"/> 講じていない	<input checked="" type="checkbox"/> 行っている <input type="checkbox"/> 一部行っている <input type="checkbox"/> 行っていない	<input checked="" type="checkbox"/> している <input type="checkbox"/> 一部している <input type="checkbox"/> していない	<input checked="" type="checkbox"/> 行っている <input type="checkbox"/> 一部行っている <input type="checkbox"/> 行っていない
点検項目に対する 現状説明	学科設置時に文科省に提出した「設置の趣旨等を記載した書類」および事前相談資料「③教育課程等の概要」、「⑤授業科目の概要」に記載したカリキュラムポリシーおよび授業等科目群にしたがって、教育課程を体系的に編成している。	実習科目と専門科目との関連性を説明し、必要に応じて講義資料等の復習を指導している。また、実習科目では実習内容毎に資料を配付し、自主学習を促している。	シラバスに成績評価基準を明記し、それに従った評価および単位認定を行っている。実習科目など学科横断的な科目の評価では、学科教員で情報を共有し、適切な指導がおこなわれているかを確認している。	ディプロマポリシーを考慮し、進路別の履修モデルを作成し、それに基づいた科目履修を指導している。また、授業アンケート調査を中心に全学年での学習成果の確認をおこなっている。	教員全員が参加する学科内会議において教務関連事項について協議している。特に実習科目においては学科内に実習検討委員会を設置し、常に内容の検討を行っている。
現状説明を 踏まえた 長所・特色	【長所】 1年次から「地域づくり」を意識した教育カリキュラムを展開している。	【長所】 オンデマンド資料をネットワーク上に掲示し、予習・復習を促している。	【長所】 シラバスに沿って実施している	【長所】 各科目のシラバスにディプロマポリシーとの関係を記載し、学生に科目の位置づけを把握させている。	【長所】 実習科目の関連を意識した検討を行っている。授業アンケート調査結果に基づき、毎年点検評価をおこなっている。
	【特色】 1年次から3年次まですべての学年で実習科目を配置し、実践的教育を行っている。	【特色】 実習では、グループディスカッションやプレゼンテーションの機会を多くし、自主学習の効果を高めている。	【特色】 シラバスに沿って実施している。	【特色】 1年次から3年次まですべての学年で実習科目を配置し、実践的教育を行うことで、地域づくりに貢献できる人材育成を行っている。	【特色】 1年次から3年次まですべての学年で実習科目を配置し、実践的教育を行っている。
現状説明を 踏まえた 問題点及び次 年度への課題	【問題点】 特になし	【問題点】 特になし	【問題点】 特になし	【問題点】 特になし	【問題点】 特になし
	【課題】 特になし	【課題】 特になし	【課題】 特になし	【課題】 卒業生に対するヒアリング等から、本学科で提示している学習成果について把握する。	【課題】 特になし
根拠資料名	学生生活ハンドブック [カリキュラム] 教育研究上の目的・教育目標・3つのポリシー	シラバス、学生ポータル、Webclass	シラバス、令和7年度 地域創成科学科 教員会議議事録	履修のてびき、教育研究上の目的・教育目標・3つのポリシー	地域創成科学科 学科内役割・委員一覧

2. 学生の受け入れに関する点検・評価項目

	①	②
点検項目	学生の受け入れ方針（アドミッション・ポリシー）に基づき、学生募集及び入学者選抜の制度や体制を適切に整備し、入学者選抜を公正に実施しているか。	学生の受け入れの適切性について定期的に点検・評価を行っているか。また、その結果をもとに改善・向上に向けた取り組みを行っているか。
自己評価 (☑を記入)	<input checked="" type="checkbox"/> している <input type="checkbox"/> 一部している <input type="checkbox"/> していない	<input checked="" type="checkbox"/> 行っている <input type="checkbox"/> 一部行っている <input type="checkbox"/> 行っていない
点検項目に対する 現状説明	理系、文系を問わず、「地域づくり」に積極的に取り組める学生を募集し、自己・学校推薦型を含む様々な選抜試験を行っている。	学科会議、入試選考会議は全教員が参加することとしており、学生の受け入れの適切性は担保されている。また、次年度（令和8年度）入試の定員数、受験科目についても、入学センターと連携し協議している。
現状説明を 踏まえた 長所・特色	【長所】 一般入試、大学入学共通テストでは、学内の他学科に比べて、幅広い科目選択による受験を可能としている。また、推薦入試では「地域づくり」を意識した小論文を課し、選抜を行っている。	【長所】 推薦入試では「地域づくり」を意識した小論文を課し、選抜を行っている。
	【特色】 大学案内では、「地域づくり」「学べること」「なれる人」をキーワードとした学科紹介を行い、読み手にアドミッションポリシーが伝わるよう意識している。大学HP上での動画公開、Instagramにより、学科の広報活動を積極的に実施している。	【特色】 理系、文系を問わず、「地域づくり」に積極的に取り組める学生を募集している。
現状説明を 踏まえた 問題点及び次 年度への課題	【問題点】 ・特になし	【問題点】 ・特になし
	【課題】 ・特になし	【課題】 ・特になし
根拠資料名	大学案内 2025 [2026 年度入試制度] 教育研究上の目的・教育目標・3 ポリシー	令和7年度 地域創成科学科 学科会議議事録

3. 教員・教員組織に関する点検・評価項目

	①	②	③	④	⑤
点検項目	各学部・研究科等の教員組織の編制に関する方針を明示しているか。	教員組織の編制に関する方針に基づき、教育研究活動を展開するため、適切に教員組織を編制しているか。	教員の募集、採用、昇任等を適切に行っているか。	教員の資質の向上を図るための方策を組織的かつ多面的に実施し、教員及び教員組織の改善につなげているか。	教員組織の適切性について定期的に点検・評価を行っているか。また、その結果をもとに改善・向上に向けた取り組みを行っているか。
自己評価 (☑を記入)	<input checked="" type="checkbox"/> している <input type="checkbox"/> 一部している <input type="checkbox"/> していない	<input checked="" type="checkbox"/> している <input type="checkbox"/> 一部している <input type="checkbox"/> していない	<input checked="" type="checkbox"/> 行っている <input type="checkbox"/> 一部行っている <input type="checkbox"/> 行っていない	<input checked="" type="checkbox"/> つなげている <input type="checkbox"/> 一部つなげている <input type="checkbox"/> つなげていない	<input checked="" type="checkbox"/> 行っている <input type="checkbox"/> 一部行っている <input type="checkbox"/> 行っていない
点検項目に対する 現状説明	大学及び本学部の教員組織の編制方針を踏まえるとともに、本学科の教育研究上の目的、教育目標及び3つの方針を十分理解し、それらに対応する能力と意欲を備えている教員を配置する、としている。	地域創成科学を構成する各々の学問領域において、研究・教育能力を備え、地域創成科学の発展に貢献できる教員を配置している。	准教授ならびに助教の教員に対して毎年業績調査を行い、昇格について学科教授会で審議している。	若手教員、特に任期制教員については、毎年面談を行い、教育実績、研究実績について、確認し、指導を行っている。	退職予定者の後任人事案件が生じた場合、後任補充にとどまらず、学科の将来を見据えた教育研究分野の人材について審議し、枠取り申請ならびに教員公募の要件を設定している。
現状説明を 踏まえた 長所・特色	【長所】 教員組織の編制方針に記した通りである。	【長所】 特になし	【長所】 年齢に関係なく、十分な業績を有し、学科運営に積極的な人材を昇格対象としている。	【長所】 1 研究室あたり年齢の異なる 3 名の教員を配置し、若手教員の育成を図っている。	【長所】 専門分野の固定化に陥ることなく、時代の要請に応じた適材適所の人材を確保する。
	【特色】 教員組織の編制方針に記した通りである。	【特色】 「地域づくり」に対応し、学科として幅広い研究領域を有している。	【特色】 ・特になし	【特色】 実習に全教員が参加することで、他教員の教育内容を聞き、互いの理解度を高めている。	【特色】 ・特になし
現状説明を 踏まえた 問題点及び次 年度への課題	【問題点】 ・特になし	【問題点】 ・特になし	【問題点】 ・特になし	【問題点】 ・特になし	【問題点】 ・特になし
	【課題】 ・特になし	【課題】 ・特になし	【課題】 ・特になし	【課題】 ・特になし	【課題】 ・特になし
根拠資料名	教員組織の編制方針 設置認可申請書・届出書「設置の趣旨等を記載した書類」オ. 教員組織の編成の考え方及び特色	教員組織の編制方針 設置認可申請書・届出書「設置の趣旨等を記載した書類」オ. 教員組織の編成の考え方及び特色	令和7年度 地域創成科学科 学科教授会議事メモ	任期制教員指導記録。シラバス。	令和7年度 地域創成科学科 学科会議議事録。令和7年度地域創成科学科将来構想委員会議事録。

学部・研究科名 地域環境科学部
 学部長・研究科委員長名 竹内 康
 学科名・専攻名 森林総合科学科

1. 教育に関する総合的事項

	①	②	③
目 標	◎ カリキュラム改正 平成30年に実施した分野名変更、令和元年に実施したカリキュラム改正を踏まえて、カリキュラムの実施状況などの確認を行い、次期カリキュラム体制を整える。また、カリキュラムと関連した実習内容や担当についても確認、検討する。	◎ 卒業生の質保証 問題発見およびその問題解決能力、分かりやすく表現できる記述力やプレゼンテーション能力およびコミュニケーション能力などのスキルアップを図る。	◎ 大学院進学者の増加に向けた取り組み 入学定員の充足を図るべく、専門基礎能力の涵養に努め、新規研究領域の開拓や研究手法の開発に取り組む。
実行サイクル	<u>4</u> 年サイクル（令和5年～令和8年）	<u>1</u> 年サイクル（令和7年～毎年）	<u>1</u> 年サイクル（令和7年～毎年）
実施スケジュール	① 現行カリキュラム（講義、実習科目）の問題点・課題抽出、現行の実習科目内容の問題点・課題抽出 ② 学科専門科目の科目、必修・選択の区分、内容、担当者、配当学年・学期などの見直し ③ カリキュラムツリーおよび履修モデルの作成、学外（演習林等）実習科目の実施スケジュールの作成 ④ 履修モデル、および時間割の作成	研究室単位で行う3年生の専攻実験実習や4年生の卒業論文研究を通して、問題発見およびその問題解決能力、分かりやすく表現できる記述力、プレゼンテーション能力およびコミュニケーション能力などのスキルアップを図る。そのために、各研究室において課題研究発表や、卒業論文の所信表明、中間発表、成果報告会に取り組む。	専攻実験実習や卒業論文指導などを中心として、研究室活動の一層の充実を図る。具体的には、学生参加型のゼミの開催や学習成果の発表機会の確保、学外実習の充実などに取り組む。
目標達成を測定する指標	① 新カリキュラムにおける学科専門科目の確定 ② 新カリキュラムにおける実習科目の内容、スケジュール確定 ③ カリキュラムツリーの作成 ④ 履修モデルの作成 ⑤ 時間割の作成	① 専攻実験実習などにおける情報収集（文献調査など）やプレゼンテーションの評価をおこなう ② 卒業論文の所信、中間、成果発表会や、提出論文などに関する評価を実施する。	① 専攻実験実習などにおける評価をおこなう ② 卒業論文の所信、中間、成果発表会、提出論文に関する評価を実施する。 ③ 学外実習機会の確保をはかり、かつ確認する。
自己評価 (☑を記入)	<input type="checkbox"/> 達成した <input checked="" type="checkbox"/> 一部達成した <input type="checkbox"/> 達成できず要継続 <input type="checkbox"/> 達成できず目標の変更	<input type="checkbox"/> 達成した <input checked="" type="checkbox"/> 一部達成した <input type="checkbox"/> 達成できず要継続 <input type="checkbox"/> 達成できず目標の変更	<input type="checkbox"/> 達成した <input checked="" type="checkbox"/> 一部達成した <input type="checkbox"/> 達成できず要継続 <input type="checkbox"/> 達成できず目標の変更
目標に対する現状説明	目標を達成できた項目が増えた。引き続き、目標達成にむけて努力していきたい。	目標を達成できた項目が増えた。引き続き、目標達成にむけて努力していきたい。	目標を達成できた項目が増えた。引き続き、目標達成にむけて努力していきたい。
現状説明を踏まえた長所・特色	【長所】 コロナ禍以降、オンライン会議は合理的な面もあり、継続している。	【長所】 学生とのコミュニケーションを重視し、講義及び調査研究の指導を行っている。	【長所】 大学院生の発表会等を実施し、学部学生へも参加を呼びかける等の工夫を行った。
	【特色】 とくに無し。	【特色】 本学の実学主義の理念に基づき、森林・林業現場での諸研究の推進につとめている。	【特色】 本学の実学主義の理念に基づき、森林・林業現場での諸研究の推進につとめている。
現状説明を踏まえた問題点及び次年度への課題	【問題点】 新たな方向性を検討する。	【問題点】 新たな方向性を検討する。	【問題点】 新たな方向性を検討する。
	【課題】 新カリキュラム、各資格申請等を検討する。	【課題】 大学運営と教育双方のバランスを図り、充実した教育の推進に努める。	【課題】 大学院教育を充実させ、その研究内容の発信にも努める。
根拠資料名			

2. 研究に関する総合的事項

	①	②	③
目 標	◎ 学内での連携による研究の推進 学科内、学部内、学内における研究交流の実現。	◎ 学外関係者との連携による研究の推進 学外における研究交流の実現。	
実行サイクル	____ 2 ____年サイクル（令和7年～令和8年）	____ 2 ____年サイクル（令和7年～令和8年）	____年サイクル（令和 ____年～ ____年）
実施 スケジュール	単独研究あるいは同一専門内における研究に終始せず、学内の他分野との連携強化を図る。また、共同研究の成果を論文などの形式で公表することを念頭に、初年度は研究内容の調整と研究計画の策定を実施する。	学内における研究に終始せず、学外の他分野との連携強化を図る。また、共同研究の成果を論文などの形式により公表することを念頭に、初年度は研究内容の調整と研究計画の策定を実施する。	
目標達成を測定する指標	① 連携実績の確認 ② 研究計画策定の確認 ③ 成果公表（準備）の確認	① 連携実績の確認 ② 研究計画策定の確認 ③ 成果公表（準備）の確認	
自己評価 (☑を記入)	<input type="checkbox"/> 達成した <input checked="" type="checkbox"/> 一部達成した <input type="checkbox"/> 達成できず要継続 <input type="checkbox"/> 達成できず目標の変更	<input type="checkbox"/> 達成した <input checked="" type="checkbox"/> 一部達成した <input type="checkbox"/> 達成できず要継続 <input type="checkbox"/> 達成できず目標の変更	<input type="checkbox"/> 達成した <input type="checkbox"/> 一部達成した <input type="checkbox"/> 達成できず要継続 <input type="checkbox"/> 達成できず目標の変更
目標に 対する 現状説明	他分野との連携については進んできている。	学外の他分野との連携についてはまだ発展段階途上にあるが一部達成している。	
現状説明を 踏まえた 長所・特色	【長所】 なし。	【長所】 なし。	【長所】 ・
	【特色】 なし。	【特色】 なし。	【特色】 ・
現状説明を 踏まえた 問題点及び次 年度への課題	【問題点】 連携の未実施については、研究の各分野・領域における研究手法の差異による影響も大きい。調査研究における共通項だけでなく、補完関係による研究形態を検討していきたい。	【問題点】 連携の未実施については、研究の各分野・領域における研究手法の差異による影響も大きい。調査研究における共通項だけでなく、補完関係による研究形態を検討していきたい。	【問題点】 ・
	【課題】 ・	【課題】 ・	【課題】 ・
根拠資料名			

3. その他に関する総合的事項

	①	②	③
目 標	◎ 学科 PR 活動の強化 受験生の増加、質の高い学生確保に向けた学科広報のあり方を検討し、高校へ出張講義や一般市民対象の講座など学内外において積極的な PR 活動を行う。また、学科パンフレットの見直しや学科関連の出版物刊行など PR 活動の充実を図る。	◎ 危機管理体制の改善・強化 学科内に既に設置してある「危機管理委員会」および「将来構想委員会」などの連携を強化し、各種ハラスメントおよび事故などの発生防止に努めるとともに、万が一の事案発生についてシミュレーションを行う。	◎ 卒業生（同窓会）との連携強化 同窓会組織等と連携し、相互に資する関係の強化を図り、学生の確保、卒業生の就業機会の確保に努める。また、同時に学科の社会貢献の一環として位置づける。
実行サイクル	3 年サイクル（令和 5 年～令和 7 年）	1 年サイクル（令和 7 年）	1 年サイクル（令和 7 年）
実施スケジュール	① 指定校を見直し、質の高い学生を確保 ② 高校へ出張講義などを増加、学科の PR ③ 全国の高等学校森林・林業教育関係者との連携を図り、大学・学部・学科の PR を行う ④ パンフレットなどの見直しを行う	① 危機管理委員会の開催 ② 将来構想委員会の開催 ③ 危機管理委員会および将来構想委員会の連携	① 学科教員の同窓会活動への参加 ② 同窓生による学科学生のための各種行事（講座など）の開催 ③ 卒業生名簿などの整備
目標達成を測定する指標	① 指定校の見直しを確認 ② 高校へ出張講義などの増加状況の確認 ③ 全国の高等学校森林・林業教育関係者との連携実態の確認 ④ パンフレットなどの見直し状況の確認	① 危機管理委員会の開催確認 ② 将来構想委員会の開催確認 ③ 危機管理委員会および将来構想委員会の連携状況の確認 ④ 学生の学内外における活動の規定・ガイドラインやマニュアルなどの整備（改定および新規作成）	① 学科教員の同窓会活動への参加状況の確認 ② 同窓生による学生のための各種行事の開催状況の確認 ③ 卒業生名簿の整備状況の確認
自己評価 (☑を記入)	<input type="checkbox"/> 達成した <input checked="" type="checkbox"/> 一部達成した <input type="checkbox"/> 達成できず要継続 <input type="checkbox"/> 達成できず目標の変更	<input type="checkbox"/> 達成した <input checked="" type="checkbox"/> 一部達成した <input type="checkbox"/> 達成できず要継続 <input type="checkbox"/> 達成できず目標の変更	<input checked="" type="checkbox"/> 達成した <input type="checkbox"/> 一部達成した <input type="checkbox"/> 達成できず要継続 <input type="checkbox"/> 達成できず目標の変更
目標に対する現状説明	PR 活動の充実については、今後も継続した努力が必要。	「実施スケジュール」に示される各項目についてはほぼ実現したが、現下の状況に即応しうる体制の整備は不十分。	概ね計画通り達成できたと思われる。
現状説明を踏まえた長所・特色	【長所】 なし。 【特色】 なし。	【長所】 なし。 【特色】 なし。	【長所】 なし。 【特色】 なし。
現状説明を踏まえた問題点及び次年度への課題	【問題点】 大学あるいは学部のビジョンとの関連において、学科の特性を再確認し、PR 活動に臨むことが肝要だが、やや不十分な達成状況にある。 【課題】 大学・学部のビジョンを再確認・再認識しつつ、学科の魅力の掘り出しに努め、その成果を PR する。	【問題点】 学科内外の関係者とのきめの細かい連携がやや不十分である。 【課題】 関係者との連携を強化し、ハラスメント等の発生防止に努める。	【問題点】 同窓会・卒業生等との連携を可能とする新たな手法を見いだし得ない。 【課題】 新たな関係の構築方法を模索し、同窓会・卒業生等との連携の強化を図る。
根拠資料名			

2025（令和7）年度 包括的な点検・評価報告書

様式2

学部・研究科名 地域環境科学部
 学部長・研究科委員長名 竹内 康
 学科名・専攻名 生産環境工学科

1. 教育に関する総合的事項

	①	②	③
目 標	～ 数学補習および学生チューター制度 ～ 数学や情報教育などを不得手と感じている希望学生へ補習的授業を実施したり、上級生による指導・助言を実施したりすることによる学生の成績向上	～ 個人面談 ～ 全学生に対して個人面談を実施することによる履修状況の把握とともに修学に関する障害の解消と、特に成績不振者の学習意欲の向上と学力向上への寄与	～ 授業視察 ～ 教員相互で授業視察を実施することによる教員の授業改善
実行サイクル	1 年サイクル（令和7年）	1 年サイクル（令和7年）	1 年サイクル（令和7年）
実施スケジュール	4月 数学補習の希望者募集、学生チューター制度のアナウンス 前期：数学補習を実施、学生チューター制度実施、効果測定 9月 数学補習の希望者募集 後期：数学補習を実施、学生チューター制度実施、効果測定	学年ごとに年1～2回の個人面談を実施 [1年生] 前後期（学年担任） [2年生] 前期（学年担任）、後期（分野） [3年生] 前後期（研究室） [4年生] 前後期（卒論担当者）で実施	前期：対象科目の選択 → 授業視察の実施 → 報告書の作成 後期：対象科目の選択 → 授業視察の実施 → 報告書の作成 次年度の授業への反映
目標達成を測定する指標	・1年次に開講する必修科目の成績評価	・学生カルテの作成実績 ・満足度調査での評価	・学生による授業評価アンケート
自己評価 (☑を記入)	<input type="checkbox"/> 達成した <input checked="" type="checkbox"/> 一部達成した <input type="checkbox"/> 達成できず要継続 <input type="checkbox"/> 達成できず目標の変更	<input type="checkbox"/> 達成した <input checked="" type="checkbox"/> 一部達成した <input type="checkbox"/> 達成できず要継続 <input type="checkbox"/> 達成できず目標の変更	<input type="checkbox"/> 達成した <input checked="" type="checkbox"/> 一部達成した <input type="checkbox"/> 達成できず要継続 <input type="checkbox"/> 達成できず目標の変更
目標に対する現状説明	理数系科目の基礎学力の低下が著しいため、平成30年度より数学の補講を学習支援として行っている。令和7年度は前期43名、後期31名を対象として各学期、研究室で分担し少人数クラスとなるようにして実施した。	学生面談は、15教員で分担担当して実施しており、教員1名あたり各学年9人程度の学生を担当する。1年次～2年次前期までの面談は、概ね95%と高い面接率で実施できている。2年次後期以降は、研究室配属となるため、面談は研究室単位で実施する。3年次からは専攻実験・実習により授業単位で研究室配属学生と密に接する機会が増える一方、面談記録については記録漏れが生じやすく、見える化が不十分となりがちとなる。	本年度は教育点検委員会で抽出した4科目について、授業視察を実施した。
現状説明を踏まえた長所・特色	【長所】 ・基礎学力の向上を図り学力の差を小さくすることで、専門教育への導入を円滑にできる。 ・少人数できめ細かい教育が可能となる。 ・数学以外の科目の他、学生生活などについても上級生に相談できるよい機会となっている。	【長所】 ・個々の学生の状況を詳細に把握でき、個別指導につなげられる。 ・学生の対話機会確保により、コミュニケーション能力の向上を図れる。 ・学修面に加え、学生のメンタル面のケアも可能となる。	【長所】 ・他の教員の授業の実施状況を知ることにより、自身の授業改善に活用できる。
	【特色】 ・正規の授業ではない補習的な教育を行っている。	【特色】 ・1年次の対象面談学生の班分けは「体験実習」授業の班構成と同一である。学生同士が班内で連絡を取り合えることで、面談実施の周知や担当教員からの連絡についても学生ネットワークを通じて班内に漏れを最小限に周知が可能である。	【特色】 ・建設的な評価を行っている。被評価者は評価結果を受け、必要であれば改善に向けて努力してもらうような仕組みにしている。
現状説明を踏まえた問題点及び次年度への課題	【問題点】 ・希望者に対して実施しており、また、正規授業ではないので強制力が乏しい。 ・上級生の協力が必要で、協力者にはアルバイト代を支給している。	【問題点】 ・面談連絡に反応しない学生もいる。 ・上級生面談の、記録を残していない者が多い。	【問題点】 ・なし
	【課題】 ・学生のモチベーションの維持・向上を図る必要がある。	【課題】 ・上級生になるほど実施割合は減少する。負担を少なくして記録として残せるようなやり方を検討する。 ・Campusmate-J（学生ポータル）の学生カルテの有効活用が必要。	【課題】 ・視察の実効性の評価の検討が必要である。
根拠資料名	数学補習希望者 (b1-①-1)	個人面談記録 (a1-②-1)	授業視察実施担当者 (a1-②-2)

2. 研究に関する総合的事項

	①	②	③
目 標	～ 研究成果の公表 ～ 学会等での研究発表数（指導学生発表分を含む）の増加	～ 研究費 ～ 競争的資金への応募数及び獲得数の増加、その他の外部資金の獲得数の増加	～ 他機関との連携 ～ グローバル連携協定校、その他の学外機関等と実施する共同研究の増加
実行サイクル	__1__年サイクル（令和7年）	__1__年サイクル（令和7年）	__1__年サイクル（令和7年）
実施 スケジュール	定期的に行われる学会等への参加あるいは学会発表の実施 年度末：効果測定	科研費 9月：科研費への応募 令和7年4月：結果通知 その他の外部資金へは都度応募 年度末：効果測定	随時、他機関との共同研究を実施 年度末：効果測定
目標達成を測定する指標	・学会やシンポジウム等参加者数 ・学会発表者数 ・投稿論文数	・競争的資金応募数と獲得数の実績 ・その他の外部資金応募数と獲得数の実績	・共同研究数
自己評価 (☑を記入)	<input type="checkbox"/> 達成した <input type="checkbox"/> 一部達成した <input checked="" type="checkbox"/> 達成できず要継続 <input type="checkbox"/> 達成できず目標の変更	<input type="checkbox"/> 達成した <input type="checkbox"/> 一部達成した <input checked="" type="checkbox"/> 達成できず要継続 <input type="checkbox"/> 達成できず目標の変更	<input type="checkbox"/> 達成した <input type="checkbox"/> 一部達成した <input checked="" type="checkbox"/> 達成できず要継続 <input type="checkbox"/> 達成できず目標の変更
目標に対する 現状説明	研究発表数は口頭発表・ポスター発表数・投稿論文の把握は行っていない。	科研費等の外部資金獲得数は把握できていない。	学外機関との共同研究数について把握できていない。
現状説明を 踏まえた 長所・特色	【長所】 ・他の研究者との議論を行う場に参加することで研究者としての資質の向上、研究へのモチベーションが確保できる。	【長所】 ・当該研究の必要性、意義などを第三者に評価される機会となる。 ・研究費がつくことで研究室課題研究の遂行が進む。	【長所】 ・学外機関の研究者との研究交流を図ることができる。
	【特色】 ・本大学から支給される研究費により学会等への会費の助成が受けられる。	【特色】 ・なし	【特色】 ・なし
現状説明を 踏まえた 問題点及び次 年度への課題	【問題点】 ・学科でのとりまとめは煩雑である	【問題点】 ・学科でのとりまとめは煩雑である	【問題点】 ・なし
	【課題】 ・学会発表・掲載論文を集計するシステム整備が必要	【課題】 ・総研での集計結果を反映して学科に還元するシステム整備が必要	【課題】 ・なし
根拠資料名	なし	なし	なし

3. その他に関する総合的事項

	①	②	③
目 標	～ 学科 PR と入学者確保 ～ 質の高い入学者確保のための対策の立案・実行と多様な受験生の獲得	～ 就職支援 ～ 学科（課外活動組織）で企画する就職セミナーや業界研究会の開催、公務員試験対策講座の実施による専門性を活かした就職先への就職者数の増加	～ 学生の FD 支援 ～ 学科の課外活動組織を利用した現地見学会の実施による学生の社会貢献のための資質の向上
実行サイクル	__1__ 年サイクル（令和7年）	__1__ 年サイクル（令和7年）	__1__ 年サイクル（令和7年）
実施 スケジュール	4月：対策（学科 Web サイト・パンフレット、出張講義、指定校見直し、年間広報活動など）を立案する 随時、実行する 年度末：効果測定	6月頃：就職セミナーの実施（主に4年生対象） 11月頃：業界研究会の実施（主に3年生対象） 11月～翌2月：公務員講座の実施 年度末：効果測定	年1回程度、現地見学会の実施 年度末、効果測定
目標達成を測定する指標	・各種受験者数増加のための活動実績	・就職セミナーや業界研究会の開催、公務員講座開講の実績 ・専門性を活かした就職先への就職率 ・公務員受験者数・合格者数・就職者数の実績	・現地見学会実施の実績 ・参加者の満足度
自己評価 (☑を記入)	<input type="checkbox"/> 達成した <input checked="" type="checkbox"/> 一部達成した <input type="checkbox"/> 達成できず要継続 <input type="checkbox"/> 達成できず目標の変更	<input type="checkbox"/> 達成した <input checked="" type="checkbox"/> 一部達成した <input type="checkbox"/> 達成できず要継続 <input type="checkbox"/> 達成できず目標の変更	<input type="checkbox"/> 達成した <input checked="" type="checkbox"/> 一部達成した <input type="checkbox"/> 達成できず要継続 <input type="checkbox"/> 達成できず目標の変更
目標に対する 現状説明	・高校へのお出張講義等を実施した。 ・指定校の見直しを行った。 ・収穫祭における学科広報について外部に委託して実施した。	・11月に就職相談会を実施した。 ・12月に公務員講座を実施した。	・1月に現地見学会を実施した。 ・「学生の非認知能力育成支援」との目標に来年度変更
現状説明を 踏まえた 長所・特色	【長所】 ・専門業者の意見や分析を元に広報活動を展開できる。 【特色】 ・第三者の意見も取り入れた活動を行っている。	【長所】 ・学生のキャリア教育となり、進路選択の一助となる。 【特色】 ・学科の専門色の濃い企画、学生のニーズを反映できる企画を実施できる。	【長所】 ・現場を知ることで、学習・研究意欲の増進が期待できる。 【特色】 ・学科の専門色の濃い見学先を設定している。
現状説明を 踏まえた 問題点及び次 年度への課題	【問題点】 ・広報の効果測定ができない。 【課題】 ・学科の教育・研究についての認知度拡大に資した広報を的確に実施する方策の把握が必要。	【問題点】 ・授業と重複しない日時に企画を設定するのが難しい場合もある。 ・公務員対策講座の参加者が少なかった。 【課題】 ・参加者数の向上と就職支援活動の効果を検証する必要がある。 ・公務員講座についても内容や効果の検証が必要である。	【問題点】 ・授業と重複しない日時に企画設定することで日程が固定化。 【課題】 ・実施日とともに見学先の選定も重要となる。
根拠資料名	出張講義などリスト (b3-①-1) 指定校選定方針 (b3-①-2)	就職相談会の開催案内 (b3-②-1) 公務員講座の開催案内 (b3-②-2)	現地見学会案内 (b3-③-1)

2025（令和7）年度 包括的な点検・評価目標

様式2

学部・研究科名 地域環境科学部

学部長・研究科委員長名 竹内 康

学科名・専攻名 造園科学科

1. 教育に関する総合的事項

	①	②	③
目 標	都市環境から自然環境に至るまでの育成と保全に科学的かつ実践的に対応できる者を養成することを目標とする。	新たな環境を計画的、デザイン的に創成できる者を養成することを目標とする。	技術と実践力をもって自然環境の利活用を生態技術的、環境芸術的に処理できる者を養成することを目標とする。
実行サイクル	8年サイクル（令和7年～令和14年）	8年サイクル（令和7年～令和14年）	8年サイクル（令和7年～令和14年）
実施スケジュール	カリキュラムポリシーに基づき、学習目標を学生に周知して授業を実施するとともに、レポート・試験を通して学生の学習目標達成度の評価を行う。 JABEE 認定校としての要件を常に確認し、第三者の審査による教育体制自己点検を含めた技術者教育の確認を継続する。	カリキュラムポリシーに基づき、学習目標を学生に周知して授業を実施するとともに、レポート・試験を通して学生の学習目標達成度の評価を行う。 JABEE 認定校としての要件を常に確認し、第三者の審査による教育体制自己点検を含めた技術者教育の確認を継続する。	カリキュラムポリシーに基づき、学習目標を学生に周知して授業を実施するとともに、レポート・試験を通して学生の学習目標達成度の評価を行う。 JABEE 認定校としての要件を常に確認し、第三者の審査による教育体制自己点検を含めた技術者教育の確認を継続する。また JABEE 認定のほか、「樹木医補」、「測量士補」、「自然再生士補」の資格認定に対応したプログラムを提供し、学生の学習活性化強化を目指している。
目標達成を測定する指標	授業シラバス 15 回の定期点検と教員相互の点検を実施する。 また、学生による授業評価と満足度評価を実施する。 日本技術者教育認定機構(JABEE)による教育点検を継続し、点検、評価を実施する。	授業シラバス 15 回の定期点検と教員相互の点検を実施する。また、学生による授業評価と満足度評価を実施する。 日本技術者教育認定機構(JABEE)による教育点検を継続し、点検、評価を実施する。	授業シラバス 15 回の定期点検と教員相互の点検を実施する。 また、学生による授業評価と満足度評価を実施する。 日本技術者教育認定機構(JABEE)による教育点検を継続し、点検、評価を実施する。
自己評価 (☑を記入)	<input checked="" type="checkbox"/> 達成した <input type="checkbox"/> 一部達成した <input type="checkbox"/> 達成できず要継続 <input type="checkbox"/> 達成できず目標の変更	<input checked="" type="checkbox"/> 達成した <input type="checkbox"/> 一部達成した <input type="checkbox"/> 達成できず要継続 <input type="checkbox"/> 達成できず目標の変更	<input checked="" type="checkbox"/> 達成した <input type="checkbox"/> 一部達成した <input type="checkbox"/> 達成できず要継続 <input type="checkbox"/> 達成できず目標の変更
目標に対する現状説明	学生自身が授業科目における目標達成度を十分に理解できるよう、成績評価の基準を明示した。またまた正解や模範解答を示し、答案やレポートの返却を行なった。前学期・後学期年2回の学年ガイダンスにおいて目標到達度の確認を行なった。	学生自身が授業科目における目標達成度を十分に理解できるよう、成績評価の基準を明示した。またまた正解や模範解答を示し、答案や計画・設計課題の返却を行なった。前学期・後学期2回の学年ガイダンスにおいて目標到達度の確認を行なった。	学生自身が授業科目における目標達成度を十分に理解できるよう、成績評価の基準を明示した。また正解や模範解答を示し、答案や計画・設計課題の返却を行なった。前学期・後学期年2回の学年ガイダンスにおいて目標到達度の確認を行なった。
現状説明を踏まえた長所・特色	【長所】 ・本学科は日本技術者教育認定機構(JABEE)による認定を受けたプログラムを基盤としており、自然科学と社会科学、芸術を包括した造園学の総合的かつ実践的教育を実施している。 【特色】 ・JABEE 運営委員会を中心に実施する教育プログラムの改善検討により、目標が適切に実施されているかの点検を継続的に実施している。	【長所】 ・本学科は日本技術者教育認定機構(JABEE)による認定を受けたプログラムを基盤としており、自然科学と社会科学、芸術を包括した造園学の総合的かつ実践的教育を実施している。 【特色】 ・JABEE 運営委員会を中心に実施する教育プログラムの改善検討により、目標が適切に実施されているかの点検を継続的に実施している。外部講師による評価会を積極的に実施している。	【長所】 ・本学科は日本技術者教育認定機構(JABEE)による認定を受けたプログラムを基盤としており、自然科学と社会科学、芸術を包括した造園学の総合的かつ実践的教育を実施している。 【特色】 ・JABEE 運営委員会を中心に実施する教育プログラムの改善検討により、目標が適切に実施されているかの点検を継続的に実施している。
現状説明を踏まえた問題点及び次年度への課題	【問題点】 ・JABEE コース制に伴い、コース間における教育目標の差別化および学科全体での教育内容の向上の継続が必要である。 【課題】 ・シラバスチェックなどで確認された課題点に対して、対処法的解決に加え、戦略的に改善を継続する方策の検討が必要である。	【問題点】 ・JABEE コース制に伴い、コース間における教育目標の差別化および学科全体での教育内容の向上の継続が必要である。 【課題】 ・シラバスチェックなどで確認された課題点に対して、対処法的解決に加え、戦略的に改善を継続する方策の検討が必要である。	【問題点】 ・JABEE コース制に伴い、コース間における教育目標の差別化および学科全体での教育内容の向上の継続が必要である。・取得した資格を如何に活用するべきかという観点からの情報提供をより充実させる必要がある。 【課題】 ・シラバスチェックなどで確認された課題点に対して、対処法的解決に加え、戦略的に改善を継続する方策の検討が必要である。
根拠資料名	プログラム点検書(実地審査後)(2021年10月11日 JABEE 審査結果) 2025 造園科学科指針	プログラム点検書(実地審査後)(2021年10月11日 JABEE 審査結果) 2025 造園科学科指針	プログラム点検書(実地審査後)(2021年10月11日 JABEE 審査結果) 2025 造園科学科指針

2. 研究に関する総合的事項

	①	②	③
目 標	造園科学の基本である植物、植生、及び自然を科学し、生物技術による環境創成を扱うことを目標とする。	「地域らしさ」について常に思考し、地域環境計画と場のデザインに貢献する造園手法を追求することを目標とする。	造園科学が適用される空間を建設するエンジニアリング分野で、建設技術工学、建設施工管理の理論と実務を扱うことを目標とする。
実行サイクル	___8___年サイクル（令和7年～令和14年）	___8___年サイクル（令和7年～令和14年）	___8___年サイクル（令和7年～令和14年）
実施スケジュール	日本造園学会、芝草学会、樹木医学会等の活動を行う。 国際学会などの活動を行う。	日本造園学会、都市計画学会、土木学会等の活動を行う。 国際学会などの活動を行う。	日本造園学会、日本庭園学会、日本測量協会等の活動を行う。 国際学会などの活動を行う。
目標達成を測定する指標	学会やシンポジウム等への参加人数、学会誌への投稿数、学会発表者数、学会の運営への参画の実績	学会やシンポジウム等への参加人数、学会誌への投稿数、学会発表者数、学会の運営への参画の実績	学会やシンポジウム等への参加人数、学会誌への投稿数、学会発表者数、学会の運営への参画の実績
自己評価 (☑を記入)	<input checked="" type="checkbox"/> 達成した <input type="checkbox"/> 一部達成した <input type="checkbox"/> 達成できず要継続 <input type="checkbox"/> 達成できず目標の変更	<input checked="" type="checkbox"/> 達成した <input type="checkbox"/> 一部達成した <input type="checkbox"/> 達成できず要継続 <input type="checkbox"/> 達成できず目標の変更	<input checked="" type="checkbox"/> 達成した <input type="checkbox"/> 一部達成した <input type="checkbox"/> 達成できず要継続 <input type="checkbox"/> 達成できず目標の変更
目標に対する現状説明	日本造園学会を中心とした関連学会活動や学会発表を行なった。 国際学会誌への投稿および発表を行なった。	日本造園学会等が主催する地域環境計画へ学生達が参加し、教員がその指導にあたっている。 日本造園学会を中心とした関連学会活動や学会発表を行なった。国際学会誌への投稿および発表を行なった。	日本造園学会を中心とした関連学会活動や学会発表を行なった。 国際学会誌への投稿および発表を行なった。
現状説明を踏まえた長所・特色	【長所】 ・専門分野での研究の充実を図ることができる。	【長所】 ・専門分野での研究の充実を図ることができる。	【長所】 ・専門分野での研究の充実を図ることができる。
	【特色】 ・造園分野における植物分野の研究成果を社会へアピールすることが可能である。	【特色】 ・設計コンペや学会主催の地域環境計画への参画、造園分野における計画・設計分野の研究成果を社会へアピールすることが可能である。	【特色】 ・造園分野におけるエンジニアリング分野の新たな技術開発が可能である。
現状説明を踏まえた問題点及び次年度への課題	【問題点】 ・研究論文数が不足している。	【問題点】 ・研究論文数が不足している。	【問題点】 ・研究論文数が不足している。
	【課題】 ・深化が進む他の分野とのバランスを図る必要がある。 ・研究論文作成の時間確保が重要な課題である。	【課題】 ・建築分野、土木分野、都市計画分野、環境計画分野等との共同研究による研究領域の拡大が必要である。 ・研究論文作成の時間確保が重要な課題である。	【課題】 ・深化が進む他の分野とのバランスを図る必要がある。 ・研究論文作成の時間確保が重要な課題である。
根拠資料名	・日本造園学会誌「ランドスケープ研究 5号論文集」(2025) ・日本造園学会誌「ランドスケープ研究オンライン論文」(2025) ・日本芝草学会誌「芝草研究」(2025) 他	・日本造園学会誌「ランドスケープ研究 5号論文集」(2025) ・日本造園学会誌「ランドスケープ研究オンライン論文」(2025) 他	・日本造園学会誌「ランドスケープ研究 5号論文集」(2025) ・日本造園学会誌「ランドスケープ研究オンライン論文」(2025) 他

3. その他に関する総合的事項

	①	②	③
目 標	海外研究機関や組織等との学術交流によるグローバル教育の推進 学部や学科の組織と海外の大学あるいは研究組織との学術連携により交流を図る。	産・官・学の連携による実学教育の推進	地域連携による実践的な教育研究と社会貢献の推進
実行サイクル	8年サイクル（令和7年～令和14年）	8年サイクル（令和7年～令和14年）	8年サイクル（令和7年～令和14年）
実施スケジュール	海外の研究者、技術者による特別講義開催、学部協定連携校などとの共同プロジェクト研究や国際ワークショップなどの実施によりグローバル社会への適応能力の向上を図る。	産・官・学の連携により、実質的な演習・実習授業及びフィールドワークを通しての実務能力の向上を図る。	地域との連携により、実践的な研究プロジェクト等の実施による実務能力及びコミュニケーション能力の向上とともに、社会的意義の高揚を図る。
目標達成を測定する指標	学術交流に係る特別講義及び授業、共同プロジェクト、国際ワークショップなどの実施。それらの継続的交流のためのプログラムの作成。	演習等における課題の成果発表・講評を実施する。 学科業界研究会を実施し、実学教育の深化を図る。	各地域や造園業界で実践的に活躍する方々を招聘した講演会や特別プログラムの実施状況。
自己評価 (☑を記入)	<input checked="" type="checkbox"/> 達成した <input type="checkbox"/> 一部達成した <input type="checkbox"/> 達成できず要継続 <input type="checkbox"/> 達成できず目標の変更	<input checked="" type="checkbox"/> 達成した <input type="checkbox"/> 一部達成した <input type="checkbox"/> 達成できず要継続 <input type="checkbox"/> 達成できず目標の変更	<input type="checkbox"/> 達成した <input checked="" type="checkbox"/> 一部達成した <input type="checkbox"/> 達成できず要継続 <input type="checkbox"/> 達成できず目標の変更
目標に対する現状説明	学部連携協定校であるドイツ_オスナブリュック応用科学大学との交換留学生受入システムを構築した。 ドイツ_オスナブリュック応用科学大学主催の国際ワークショップに参加し帰国後報告会を開催した。 また、韓国の造園家ドキュメンタリー映画のプレ上映会を行い、監督との交流会を開催した。	造園建設業関連産業の第一線で活躍する非常勤講師および特別講師を演習等に招聘した。 演習講評会などに造園関連産業で活躍する人材を招聘した。 学科主催の企業セミナー、学部主催の公務員セミナーを実施し、各々20団体を越える企業および行政の参加を得た。	学生・地域住民を対象としたイベントやオープンカレッジ（農大サポート）を実施し、東京農業大学の特徴や学科の特性などを伝えた。百周年記念事業として、伝統技術の継承を行った。 「経堂の森」における学生主体の定期的な草取りイベント等を実施し、取組み成果を学外で発表した。
現状説明を踏まえた長所・特色	【長所】 ・英語による学術的会話の機会取得となる。 【特色】 ・専門科目に関する英単語や思考の修得が可能である。	【長所】 ・学科独自の教育・特別プログラムの提供を行なっている。 【特色】 ・アクティブラーニングとの連動 ・学生による社会に対する造園学のアピール ・造園伝統技術の継承	【長所】 ・本学卒業生や関連組織との連携が可能となる。 【特色】 ・地域連携の実践者による教育・研究の提供と社会貢献の推進 ・学生主体の環境改善イベントの運営
現状説明を踏まえた問題点及び次年度への課題	【問題点】 ・受け入れ側の英語力の向上 【課題】 ・運営資金の継続的確保	【問題点】 ・特になし 【課題】 ・特になし	【問題点】 ・休日開催の設定が多いため、今後は平日開催の可能性も探っていく必要がある。 【課題】 ・連携内容の多様化や社会貢献に対するアピール活動の強化
根拠資料名	・学科教員会資料 ・ポータル掲載した各セミナーのフライヤー	・学科教員会資料 ・ポータル掲載した各セミナーのフライヤー	・学科教員会資料 ・ポータル掲載した各セミナーのフライヤー

学部・研究科名 地域環境科学部

学部長・研究科委員長名 竹内 康

学科名・専攻名 地域創成科学科

1. 教育に関する総合的事項

	①	②	③
目 標	学科目的である「水資源や食料生産、環境保全等の役割を担ってきた農山村地域の保全・再生、持続的発展など、地域の創成に貢献できる人材を輩出する」ため、ディプロマポリシーに基づく教育を実践する。		
実行サイクル	4 年サイクル（令和4年～令和7年）	__年サイクル（令和__年～令和__年）	__年サイクル（令和__年～令和__年）
実施 スケジュール	(1) 講義・実習・演習を通じて、源流域から中山間地域を経て平野部に至る「農域」の現状と課題に関する学びを深めさせる。（1～2年次） (2) 地域との協働を通じて農域の持続的発展に必要な技術と経験を身につけさせる。（2～3年次） (3) 出口である就職先を意識させるとともに、各研究室において専門的な教育・研究を実施する。（1～4年次）		
目標達成を 測定する指標	(1) 東京農業大学入門、学外オリエンテーションの実施内容 (2) 地域交流実習、フィールド実習(一)(二)の成果 (3) 総合実習(一)(二)の成果 (4) 卒業論文の成果		
自己評価 (☑を記入)	<input type="checkbox"/> 達成した <input checked="" type="checkbox"/> 一部達成した <input type="checkbox"/> 達成できず要継続 <input type="checkbox"/> 達成できず目標の変更	<input type="checkbox"/> 達成した <input type="checkbox"/> 一部達成した <input type="checkbox"/> 達成できず要継続 <input type="checkbox"/> 達成できず目標の変更	<input type="checkbox"/> 達成した <input type="checkbox"/> 一部達成した <input type="checkbox"/> 達成できず要継続 <input type="checkbox"/> 達成できず目標の変更
目標に 対する 現状説明	本年度は地域創成科学科の設立9年目にあたる。教育に関する総合的事項の目標と実施スケジュールに基づき、2年次の総合実習(一)および総合実習(二)において、キャンパスある世田谷区を中心とした実施計画を策定し、都市農地を有する既成市街地の現状と課題に関する学びを深めさせた。出口である就職については、3年次からキャリアの意識付けを行ってきた。研究活動では、専攻実験実習(一)(二)や卒業研究を通じて専門的な教育・研究を行った。		
現状説明を 踏まえた 長所・特色	【長所】 教員の専門分野が多岐に及ぶこと、様々な地域との連携活動・実績があることから、本学科独自の教育が可能となっている。 【特色】 現地での作業・調査・交流に加えて、データの取りまとめやプレゼンテーションをグループワークとして実施することで、実践的かつ能動的な教育を行っている。	【長所】 ・ 【特色】 ・	【長所】 ・ 【特色】 ・
現状説明を 踏まえた 問題点及び次 年度への課題	【問題点】 特になし 【課題】 特になし	【問題点】 ・ 【課題】 ・	【問題点】 ・ 【課題】 ・
根拠資料名	・ 学科ホームページ、学科インスタグラム ・ 関連科目シラバス		

2. 研究に関する総合的事項

	①	②	③
目 標	学術論文や学会大会発表、シンポジウム等を通じて、研究成果を学内外に発信する。競争的研究資金等の導入により地域創成に関わる実学研究を推進させる。		
実行サイクル	__1__年サイクル（令和7年）	__年サイクル（令和 年～令和 年）	__年サイクル（令和 年～令和 年）
実施スケジュール	(1) 研究成果発表：国内外の学術雑誌や学会大会等で研究成果公表 (2) 活動成果発信：学科 Web 等で活動成果を発信 (3) 研究資金獲得：競争的研究資金に申請		
目標達成を測定する指標	(1) 研究成果の公表状況 (2) 学科 Web 等での研究成果発信状況 (3) 研究資金の申請・獲得状況		
自己評価 (☑を記入)	<input type="checkbox"/> 達成した <input checked="" type="checkbox"/> 一部達成した <input type="checkbox"/> 達成できず要継続 <input type="checkbox"/> 達成できず目標の変更	<input type="checkbox"/> 達成した <input type="checkbox"/> 一部達成した <input type="checkbox"/> 達成できず要継続 <input type="checkbox"/> 達成できず目標の変更	<input type="checkbox"/> 達成した <input type="checkbox"/> 一部達成した <input type="checkbox"/> 達成できず要継続 <input type="checkbox"/> 達成できず目標の変更
目標に対する現状説明	学科内の教員を含め、一部教員が研究代表者または研究分担者として競争的研究資金獲得に向け申請を行っている。外部内部資金に関わらず、各教員がそれぞれの専門分野において活動し、成果を公表している。個別具体的な研究の取り組みとそれらの成果については、自己点検評価の一環として大学の公式 HP に掲載されており、そちらを参照して頂きたい。		
現状説明を踏まえた長所・特色	【長所】 教員の専門分野は多岐にわたる。	【長所】 .	【長所】 .
	【特色】 それぞれの専門分野を活かした研究を実施するとともに、分野横断的な活動を行っている。	【特色】 .	【特色】 .
現状説明を踏まえた問題点及び次年度への課題	【問題点】 特になし	【問題点】 .	【問題点】 .
	【課題】 特になし	【課題】 .	【課題】 .
根拠資料名	学科ホームページ、学科Instagram、学術論文・報告		

3. その他に関する総合的事項

	①	②	③
目 標	様々な地域を対象とした「地域づくり」に関連したイベントへの参加・協力、プログラムの実施		
実行サイクル	__1__年サイクル（令和6年）	__年サイクル（令和 年～令和 年）	__年サイクル（令和 年～令和 年）
実施スケジュール	(1) 学科教員が個人的に実施する地域連携プログラムを支援する。 (2) 学科として組織的に実施する地域連携プログラムへの参加を促し、学生への教育にフィードバックする。		
目標達成を測定する指標	(1) 地方自治体や団体との協働イベント、共同研究の状況 (2) オープンキャンパス等における活動成果の公表状況		
自己評価 (☑を記入)	<input checked="" type="checkbox"/> 達成した <input type="checkbox"/> 一部達成した <input type="checkbox"/> 達成できず要継続 <input type="checkbox"/> 達成できず目標の変更	<input type="checkbox"/> 達成した <input type="checkbox"/> 一部達成した <input type="checkbox"/> 達成できず要継続 <input type="checkbox"/> 達成できず目標の変更	<input type="checkbox"/> 達成した <input type="checkbox"/> 一部達成した <input type="checkbox"/> 達成できず要継続 <input type="checkbox"/> 達成できず目標の変更
目標に対する現状説明	地域連携に関する学科教員の活動エリアは、群馬県川場村、熊本県阿蘇地域、長野県小谷地域、佐賀県みやき町、福島県鮫川村、岩手県・宮城県沿岸地域など、多岐にわたっている。学生に対してはポータルや講義・演習を通じて、これら活動への参加を呼びかけている。活動成果の一部は、学科HPやインスタグラム、オープンキャンパス等で公表している。		
現状説明を踏まえた長所・特色	【長所】 学部・学科及び各教員の地域連携プログラムへの協力と参加を通じてこれらを積極的に支援し、研究・教育活動を活性化させている。	【長所】 .	【長所】 .
	【特色】 地域創成科学科の設立目的である「地域づくり」に向けて、実践的な活動を行っている。	【特色】 .	【特色】 .
現状説明を踏まえた問題点及び次年度への課題	【問題点】 特になし	【問題点】 .	【問題点】 .
	【課題】 特になし	【課題】 .	【課題】 .
根拠資料名	学科ホームページ、インスタグラム		